



臺高·師大通訊



NO.01
2020.MAY



校長發刊詞

臺北高校會長致詞
——
師大與臺北高校的「絆」

《臺高·師大通訊》
發刊緣起

臺北高校蕉葉會的成立
及其活動

臺高通訊要聞

國立臺灣師範大學出版
中心——典藏臺北高校

通訊聯絡欄

臺高·師大百週年



臺高・師大通訊



校長發刊詞	2
学長のごあいさつ	2
臺北高校會長致詞——	
師大與臺北高校的「絆」	4
同学会会長のごあいさつ——	
台湾師大と台北高校の「絆」	4
《臺高・師大通訊》發刊緣起	6
創刊経緯について	6
臺北高校蕉葉會的成立	10
及其活動	10
台北高校蕉葉会の成立	10
とその活動について	10
臺高通訊要聞	16
國立臺灣師範大學出版中心	20
典藏臺北高校	20
通訊聯絡欄	22
臺高・師大百週年	24

目錄

contents.

校長發刊詞



各位臺北高校的學長、家屬、以及所有關心臺北高校的朋友們，大家好！

臺北高等學校是日治時期在臺灣培育精英人才的學校，從 1922 年創校以來，培養出許多傑出的人才。臺北高校的校友們活躍於社會各個領域，也在臺灣與日本的現代歷史上留下不可抹滅的足跡。

這樣令人驕傲的臺北高校，到了戰後，便由國立臺灣師範大學所繼承。臺北高校的建築、設備、圖書、文物等等，就這樣成為了臺灣師範大學賴以維持的憑藉與重要的資產。雖然過去因為許多原因，而沒有正式地將臺師大與臺北高校的歷史合併在一起，但是我們很高興，在 2018 年 11 月的校務會議當中通過了將臺師大的校史從 1922 年開始起算的決議。從那以後，臺師大的歷史，就正式地包括了臺北高校的歷史。這對臺師大來說可以說是很大的驕傲。

也因為如此，臺師大更加積極地展開了對臺北高校歷史的收集、保存與活化。而我們最近也更進一步地透過文化部的國家文化記憶庫計畫，將臺北高校的歷史以更加貼近年輕人的方式進行保存與重現，目的就是希望讓更多人得以認識這段獨特的歷史。

國立臺灣師範大學是戰後繼臺灣大學之後所成立的第二所大學，歷史悠久，至今也是臺灣最重要的菁英大學之一。而今臺北高校與臺灣師範大學的歷史融會在一起，臺北高校的自由、自治、積極追求知識的校風，再加上臺師大多元、創新、不斷挑戰自我的精神，共同打造了這擁有將近百年歷史的學校，並且成為日本與臺灣歷史上重要的一頁。

在這裡我想說，各位學長，謝謝您們為我們留下多彩多姿的回憶，臺北高校的精神也都還鮮活地留在當下。《臺高·師大通訊》，是臺北高校精彩的見證，透過它，讓我們更緊密地連繫在一起：從現代到過去，從臺灣、日本到全球的各地。今年 2020 年我們將迎來 98 週年的校慶，誠摯期盼學長們能夠回到母校臺北高校，來親眼見證這一所令人驕傲的學校。也歡迎家屬以及關心臺北高校·臺灣師範大學的朋友們，與我們共襄盛舉。最後，祝福各位，身體健康，萬事如意！

國立臺灣師範大學校長 吳正己

学長の ごあいさつ



台北高校卒業生の皆様、そのご家族、並びに台北高校の関係者の皆様、こんにちは。

台北高校は日本統治時代に台湾で誕生したエリートを養成する高等教育機関で、1922年に創立して以来、多くの優秀な人材を輩出してきました。卒業生の皆様のさまざまな分野での活躍は、日本と台湾の現代史において、今後も決して消えることのない、偉大な足跡となっております。このように誇るべき台北高校の歴史を、戦後に至り、国立台湾師範大学が受け継ぐこととなりました。台北高校の建物、設備、図書や各種資料は、台湾師大が現在までずっと大事に保存し続けている重要な資産であります。これまで、色々な事が原因で台湾師大と台北高校の歴史を正式に一つにすることができませんでした。しかしこのたび、一昨年2018年11月に行われた学務会議で、台湾師大の教員・学生が共に、台湾師大の創立年を1922年に設定しなおそうという意見で一致しました。今後、台湾師大の歴史は正式に台北高校の歴史を包括することとなりました。これは台湾師大にとって何物にも代えがたい名誉なことといえます。

このことにより、国立台湾師範大学は今まで以上に積極的に台北高校の歴史資料の収集・保存に力を入れて取り組む所存です。そして現在、我々は台湾政府文化部から國家文化記憶庫プロジェクトを遂行する補助を得て、若者たちも興味を持てる形で、台北高校の歴史をよみがえらせる作業を進めております。多くの人に台北高校について知ってもらうことが主要な目標です。

国立台湾師範大学は戦後におきまして、台湾大学に次いでできた大学であります。長い歴史を持ち、今日に至るまでエリート養成教育機関として重要なポジションを築いてまいりました。そして今、台北高校と台湾師大の歴史は一つとなり、台北高校の自由・自治、積極的に知識を追求する学風、そして台湾師大の多元的且つ創造的で、絶えず新しいことに挑戦しようとする精神、優れた特徴を持つこの二つの学校が正に共に百年にのぼる歴史ある学校を作り上げようとしています。これは日本と台湾双方にとって大変大きな意味を持ち、歴史の重要な1ページとなることでしょう。

ここで台北高校卒業生の皆様に対し、多くの素晴らしい記憶を我々のために残してくださったことに深くお礼を申し上げたいと思います。台北高校の精神は今もなお、現代に息づいています。この度『台高・師大通訊』の刊行は、台北高校の素晴らしさを証明し、現代から過去、また日本から台湾、そして世界へと、我々をよりしっかりとつないでくれるものであります。今年2020年6月5日に創立98周年記念イベントを行います。もしお時間があれば、誉れ高い母校をもう一度ご覧になりにお越しく下さい。心より歓迎申し上げます。ご家族の皆様、台北高校と台湾師大にご関心のある方々のご来場も、大歓迎です。

最後になりましたが、今後皆様のますますのご健勝を心よりお祈り申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。(津田勤子、木立翼訳)

国立台湾師範大学 学長 吳正己

致詞 臺北高校會長 師大與臺北高 校的「絆」



「絆」這個漢字，日文念作きずな（kizuna），意思是「關係、情誼」。

臺北高等學校創立於1922年，是二次大戰前日本全國僅有38所的舊制高等學校之一，也是在殖民地臺灣唯一的一所菁英養成高校；學生畢業之後原則上可以免試直升帝國大學（包含現在臺大前身的臺北帝國大學）。

1945年日本戰敗後，日本大部分的舊制高校被合併於新制大學或者廢校，臺北高校亦免不了遭到這樣的命運。1945年底，臺北高校被接收臺灣的新政權改制成一般新制高中，並改名為「臺北高級中學」；1949年臺北高中也遭廢校，臺北高校就此走入歷史。

但是，接收承繼臺北高等學校校地、建築物、圖書以及其他設備的臺灣師範大學，並沒有因為兩校在制度上沒有實質的銜接，而撇清二者的關係，反而對臺北高校的一些舊有校舍等予以整修維護，使列為古蹟，也在2007、2012、2017年，陸續舉辦臺北高校85、90、95週年的紀念活動，邀請在日本以及臺灣的老校友和家屬們，參加文物展、學術研討會和紀念餐會等。

2018年11月，師大的校務會議通過師大學校的歷史，將從1922年臺北高校創立時期算起，使目前身為臺北高校同學會會長的我，非常的感動；當師大校友會榮譽會長、前立法院長王金平先生，用力握著我的手，稱呼我一聲「學長」時，我深刻的感受到：師大與臺北高校的「絆」（きずな）將永遠長存，臺北高校也藉著與師大之間的「絆」而再度「復活」。

謹借《臺高·師大通訊》創刊，略抒感言，並預祝通訊發行成功。

臺北高校同學會 會長
辜寬敏

同学会会長の ごあいさつ 台湾師大と台北 高校の「絆」



「絆」という字は、日本語で「きずな」(kizuna)と発音し、結びつきとつながりを意味します。

台北高等学校は1922年に創立しました。戦前日本に38校しか存在しなかった旧制高校のうちの一校で、当時日本の植民地だった台湾においてはエリートを養成する唯一の高等学校でした。学生たちはここを卒業したら、基本的には無試験で直接帝国大学に入ることができました(現台湾大学である台北帝国大学も含む)。

1945年日本の敗戦後、ほとんどの旧制高校は新制大学に統合されるか廃校になりました。台北高校もその運命から逃れることはできませんでした。1945年末、台北高校は台湾の新政権に接収され、一般の新制高校へと改められ、校名も「台北高級中学」と改称されました。そして1949年この台北高級中学も廃校となり、台北高校はついにその姿を消すことになりました。

とはいえ、学校の敷地・建物・図書・その他設備は台湾師範大学に引き継がれました。この二つの学校は制度上は実質的な引き継ぎがされたわけではなく、二者はあくまで別々の学校です。しかし台北高校の校舎のいくつかは修繕を経て古跡に指定され、2007年、2012年、2017年にはそれぞれ台北高校創立85周年、90周年、95周年の記念行事を行いました。そこでは、日本や台湾の卒業生たちやそ

の家族を招待し、資料展や学術シンポジウム、歓迎会などが開催されました。

2018年11月、師大の大学会議で師大の創立年を1922年、すなわち、台北高校の創立時にまでさかのぼることが決議されました。台北高校同学会会長である私にとっては、これは大きな感動でした。師大校友会の名誉会長、前立法院院長である王金平氏が力強く私の手を握り、「先輩」と呼んでくれた時のことは、今でも忘れられません。師大と台北高校の「絆」(きずな)は今後も永遠に続きます。この「絆」こそが、台北高校を「復活」させてくれるものだと私は心より信じております。

『台高・師大通讯』創刊の場をお借りして、簡単ですが感想を述べました。本誌が今後大きな発展を遂げますことを、お祈りしております。
(津田勤子、木立翼訳)

台北高校同学会会長 辜寬敏

發刊緣起

《臺高・師大通訊》

創刊経緯について



普字樓（昔普通教室）、文薈廳（昔生徒控所）和行政大樓（昔本館）指定為市定古蹟

普字樓（旧・普通教室）、文薈廳（旧・生徒控所）、行政大樓（旧・本館）が古跡に指定される。

1998

2003

2007

2009

禮堂（昔講堂）指定為市定古蹟
禮堂（旧・講堂）が古跡に指定される。



舉辦「臺北高等學校 85 週年紀念展」
「台北高等学校 85 周年記念展」開催。



於圖書館舉辦「臺北高校同學會 98 年度總會」
図書館にて「台北高校同
学会 98 年度総会」開催。

圖書館 8 樓設立臺北高等
學校資料室
図書館 8 階に台北高等学
校資料室を設立。

臺北高校創立於大正 11 年（西元 1922 年），致力於培育菁英人才，創造了人文薈萃的辦學成就，其自由自治的學風精神，在戰後延續至不同學制的國立臺灣師範大學。臺北高校的諸多校舍保留迄今仍為本校的重要建築，如講堂（今禮堂）、普通教室（今普字樓）、生徒控所（今文薈廳）和本館（今行政大樓）等，均列為市定古蹟。

國內外各大學對於校齡認定，無論校名或學制變化、無論有無大學形貌、公立或私立的轉變、中間曾停辦再復學、甚或沒有直接或接續關係者，都可以本於學校傳統和精

神傳承，以起源時間作為校史起點。本校自 1946 年於臺北高校校址成立臺灣省立師範學院，1955 年升格為臺灣省立師範大學，1967 年改制為國立臺灣師範大學，臺北高校的人文精神與建築空間在臺師大往後的發展階段中皆具有不可忽視的歷史意義。校史理當是在時間發展脈絡中，由人文和空間相互交織而成的歷史，正因如此，臺師大尊重歷史、實事求是，於 2018 年 11 月 21 日校務會議決議，將校史追溯自 1922 年臺北高校創立為始。



修復梁實秋故居（臺北高等學校富田義介教授宿舍）

旧梁実秋邸（台北高等学校富田義介教授宿舍）が修復される。

2010

2011



修復文薈廳（生徒控所）

文薈廳（旧・生徒控所）が修復される。

2012



出版『日治時期臺北高等學校與菁英養成』、『臺北高等學校圖書目錄』
『日本統治時代の台北高等学校とエリート育成』・『台北高等学校図書館目録』出版。

於文薈廳舉辦「臺北高校同學會 2012 年年會」
文薈廳にて「台北高校同学会年会」開催。



舉辦「臺北高等學校創校 90 週年紀念特展」，發行「白線帽的青春」紀錄片，並舉辦國際學術研討會，藏本人司、川平朝清、園部逸夫等校友蒞校與會

「台北高等学校創立 90 周年特別記念展」開催、ドキュメンタリー DVD「白線帽の青春」製作、国際学術シンポジウム開催。
藏本人司、川平朝清、園部逸夫等日本人卒業生の歓迎会開催。



大正 11 年（西暦 1922 年）に創設された台北高校は、エリート人材の育成に力を注ぎ、高い学識を誇る高等教育機関として台湾に君臨しました。学生の自由・自治を貴ぶその学風精神は、戦後になり国立台湾師範大学（以下、台湾師大と略称）に引き継がれました。講堂（現・禮堂）、普通教室（現・普字樓）、生徒控所（現・文薈廳）、本館（現・行政大樓）など、台北高校のいくつもの校舎はいまなお本学の重要な建築物として使われ、これらはすべて古跡として台北市の認定を受けています。

国内外各大学の創立年認定については、大学名や学校制度の変化、また当初大学の形を採っていたか否か、官・国公立から私立、またはその逆への転換がなかったか否か、休校時期などはなかったか否か、直接或いは継続的な関係者がいるか否か、これらの要素が一つの学校

の校風や精神の基礎となり、学校史の源となります。

1946 年、台北高校の所在地に台湾省師範学院が創設され、1955 年にそれは台湾省立師範大学に昇格、さらに 1967 年に国立台湾師範大学に改められました。台北高校の人文精神と建築空間は、台湾師大が今後発展していく中で、決して疎かにしてはいけない歴史的意義を持っています。台湾師大の歴史は当然の如く、時間の経過の中で人文教養と空間が互いに織りなして作りだしたものであり、それだけに、台湾師大はその歴史を尊重し、事実に基づいた真実を追求しました。その結果、2018 年 11 月 21 日の学務会議にて、台湾師大の創立年を 1922 年に、つまり台北高校創立時にさかのぼることが決議されました。

臺北高校同學會及蕉葉會捐贈自由之鐘
台北高校同学会年会開催、蕉葉會より自由の鐘寄贈。

李登輝前總統蒞校演講
李登輝前總統来学・講演。

出版「臺北高校物語」漫畫
漫画『台北高校物語』出版。



2013

2017

舉辦「臺北高等學校創校 95 週年特展暨國際學術研討會」，陳建仁副總統等貴賓蒞臨會場
「台北高等学校創立 95 周年特別展」「国際学術シンポジウム」開催、陳建仁副總統他貴賓の来学。

發表臺北高等學校校園虛擬實境
台北高等学校キャンパス VR 製作。



多年來，臺師大戮力保存臺北高校蘊含的豐萃文化能量，於圖書館 8 樓設立「臺北高等學校資料室」，舉辦「臺北高等學校 85 週年紀念展」、「臺北高等學校創校 90 週年紀念特展」、「臺北高等學校創校 95 週年特展」，辦理國際學術研討會，發行「白線帽的青春」紀錄片，出版《日治時期臺北高等學校與菁英養成》及《臺北高等學校圖書目錄》，並修復文薈廳與富田義介教授宿舍（今梁實秋故居）等，目前還有更多計畫與研究在進行中，這些將逐一呈現在《臺高・師大通訊》中，使各位校友瞭解臺師大在臺北高校建立的基礎上所拓展之成果。

臺師大承繼了臺北高校的教學資源與治學精神，逐漸發展成為臺灣師資培育教育的重鎮，足為近百年的薈萃風華留下見證。在 2022 年迎來百年校慶的同時，期待能藉由本刊的發行，喚起校友們對於母校的記憶與懷念。

圖書館 柯皓仁館長

柯皓仁

舉辦「臺高歲月回眸—王育霖檢察官生平特展」

「台高の歳月を振り返って—檢察官王育霖の一生特別展」開催。

校務會議決議追認校齡自1922年起算
学務會議にて本学の創立年を1922年に追認する決議がなされる。



提案3
案由：本校校史觀以1922年臺北高等學校時期為校齡起點，提請討論。

說明：
一、國外各大學對於校齡之認定，無論校名或學制的變化，原系有無大學的形態、公立私立的轉變、中間曾停辦再復學，甚至是有直接或接續關係者，都可能本於學校之傳統和精神的傳承，以起源時間作為校史起點。
二、我國大專院校校齡起點換算方式不一，有些計算自清朝時期之學堂（如國立清華大學、國立交通大學），有些溯自日治時期（如國立臺北教育大學、臺北市立大學、國立臺灣大學、國立中興大學、國立成功大學），有些為政府來臺後校（如國立政治大學、國立中央大學）。前述各校校齡資料請見附件。（附件3，第70-79頁）
三、學校的歷史，理當是在時間發展脈絡中，由人文、精神和空間相互交織而成的歷史。本校前身臺北高校創校於1922年，致力於培育人才，創造人文薈萃的辦學成就，具自由自治的學風精神，在迥異不同的歷史發展階段中皆有所傳承。此外，在本校現有校址上，當時諸多校舍建築空間仍保存至今，並持續使用。因此，在不同學制的歷史發展時期中，不論在人文、精神和空間的延續和繼承方面，皆具有不可忽視的歷史意義。本於尊重歷史，實事求是，故擬建議以此作為校齡起點。是以，明年（2019）起，本校校史即邁入97週年。
校務會議常務委員會審查意見：同意提請第121次校務會議審議。
決議：照案通過。

2018

2019

於文薈廳舉辦「臺北高等學校創立97週年紀念會」
文薈廳（元生徒控所）にて「台北高等学校創立97週年紀念會」開催。

4月吳正己校長參加日本東京蕉兵會

4月、吳正己校長が日本東京蕉兵會に参加。

舉辦「記憶與傳承—國立臺灣師範大學創校97週年紀念特展」

「記憶と継承—国立台湾師範大学創立97周年当別記念展」開催。

典藏臺北高等學校尋常科博物科標本與學生作業
台北高等学校の生徒製作作品が科学博物館にて標本として展示される。



長年にわたり、台湾師大は台北高校に秘められた豊かな文化的エネルギーの保存に努めており、図書館の8階に「台北高等学校資料室」を設置し、また「台北高等学校85周年記念展」や「台北高等学校創立90周年特別記念展」、「台北高等学校創立95周年特別展」なども開催してきました。これらの行事の一環として、国際学術シンポジウムを執り行った他、ドキュメンタリーDVD「白線帽の青春」の製作、『日本統治時代の台北高等学校とエリート育成』および『台北高等学校図書館目録』の出版、文薈廳（元生徒控所）と富田義介教授の元宿舎（梁実秋の旧家）の修復などの事業も進めてきました。

こうした事業やプロジェクトについては、今後この『台高・師大通訊』上ですべてご紹介していく所存です。本誌が、卒業生の皆様に本学が台北高校の築き上げた基礎の上に成り立つ

ているということを知っていただけるツールとなることを心より願ってやみません。

本学は台北高校の教育資源と学問に対する精神を継承し、次第に台湾の教師育成教育機関の重鎮となるまでに発展いたしました。そして百年に及ぶ重みある足跡を残しました。2022年にはついに創立100周年を迎えますが、本誌が、卒業生の皆様の母校についての思い出と記憶を呼び起こすきっかけになりますことを、心より祈念しております。（津田勤子、木立翼記）

図書館館長 柯皓仁

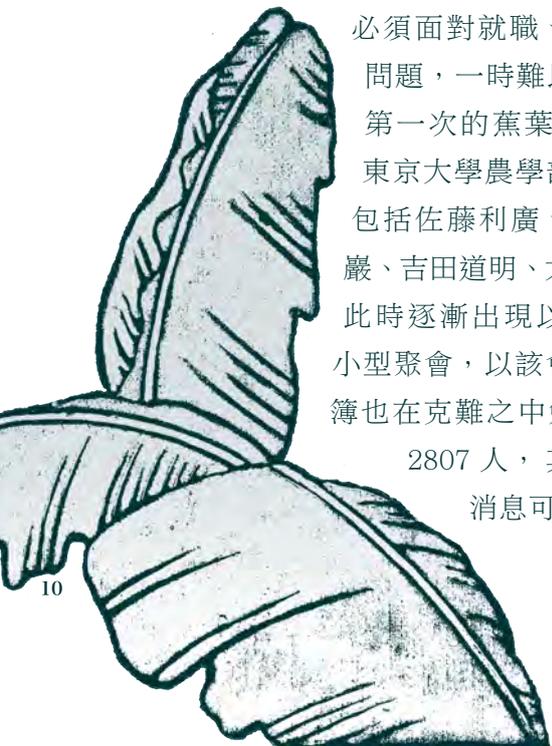
臺北高校蕉葉會的成立及其活動

— 戰後至 1970 年代

日治時期臺北高校同窗會設在校內，由住在臺北的校友負責運作。據 1941 年的《臺高同窗會名簿》可知，會則計 18 條，較重要者歸納如下：會長推舉校長擔任，理事 15 名，由其負責庶務、編輯、會計；每年召開總會一次。日本戰敗後，1946 年 7 月，臺北高校師生在公會堂（今中山堂）召開臺北高校同學會成立大會，第一屆畢業生徐慶鐘出任理事長，其後歷任會長為劉闊才、楊基銓、黃伯超、辜寬敏。

戰後日籍師生等待遣返日本，必須面對就職、就學等現實的問題，一時難以重建同窗會。第一次的蕉葉會於 1950 年在東京大學農學部舉辦，參加者包括佐藤利廣、霜三雄、松本巖、吉田道明、大越伸等 12 人。此時逐漸出現以蕉葉會為名的小型聚會，以該會名義編輯的名簿也在克難之中勉力完成（收錄 2807 人，其中 1500 人的消息可以掌握）。

根據德丸薩郎之回顧，蕉葉會成形於 1960 年夏天，盡力付出的校友包括三井明、鹿沼彰、藏本人司等人。1961 年召開總會（120 人參加），鉅鹿義明就任會長。1963 年鉅鹿因健康不佳，清水護接任會長；1965 年清水的任期滿了，吉村邦壽接任會長。1960 年代以降，透過總會選出會長與幹部，在眾人的分工合作下，會務漸上軌道，蕉葉會成為凝聚日籍師生的重要象徵。該會繼承臺高同窗會的傳統，持續發行名簿，1961 年起發行會報（已停刊，共計 100 期）。該會亦定期舉辦新年會與總會。在日本的臺灣人校友儘管不多，也積極參加該會的活動；臺灣人校友訪日時，該會成員聚會加以歡迎。此外，該會對寮歌祭相當重視，不僅可以表現臺高的特色，也能與他校進行交流。



台北高校蕉葉会の成立とその活動について

— 戦後から1970年代まで



日本統治時代、台北高等学校の校内に同窓会ができ、台北在住の卒業生によって運営された。1941年の『台高同窓会名簿』によれば会則は全部で18条あり、校長が会長を務め、15人の理事が庶務、編集、会計を担うことが定められていた。日本の敗戦を経た1946年7月に台北高校の教師と生徒は公会堂（現在の中山堂）に集い、台北高校同窓会を結成した。会長には、第1期の卒業生から徐慶鐘が選ばれた。徐の後任として、劉闊才、楊基銓、黃伯超の各氏、そして現在は辜寬敏氏が会長職を務めている。

だが、終戦によって日本へと引き揚げた教師や生徒は、進学や就職といった現実的な問題に向き合うことになり、継続して同窓会を開くことが難しくなった。第1回の蕉葉会が開かれたのは、1950年になってからのことだ。東京大学農学部で行われたこの会には、佐藤利広、霜三雄、松本巖、吉田道明、大越伸など12人が参加した。その後も少人数の食事会の形で開かれたものの、会の名目で名簿を作成するのは困難を極めた。なお、名簿には2,807人の名が記され、そのうち1,500人のその後が確認できる。

一方、同校卒業生の一人、徳丸薩郎によれば、蕉葉会ができたのは1960年の夏だという。三井明、鹿沼彰、藏本人司各氏の尽力によるもので、翌61年には120人が参加する総会が開催され、鉅鹿義明氏が会長に任命された。その後、鉅鹿の健康上の理由により、63年に清水護によって会長職が引き継がれた。65年、任期満了に伴い、後任は吉村邦壽があたった。以降、総会で会長と幹部が選出されるようになり、各自の分担や協力の下、会の運営は徐々に軌道に乗り、日本の関係者の間では大きな存在となっていった。蕉葉会は、台高同窓会の伝統を受け継ぎながら、名簿を作成し、1961年からは会報の発行をスタートさせた。会報はすでに休刊となったがこれまでの発行は100期を数え、定期的に新年会や総会が行われた。日本にいる台湾人卒業生は、こうした会の運営に極力、都合をつけて参加していた。また、在台の卒業生が訪日する際にも会合に出席する姿が見られた。このほか、蕉葉会では寮歌祭にも重きを置き、台高の特色を見せるだけでなく、他校との交流も可能にした。

尤其值得特書的事業是，會員合力編纂的《臺北高等學校》(1970年出版，印刷1千本)，為校史留下寶貴的見證。吉村會長內任，1971年12月29日至翌年1月3日(6天5夜)，臺灣母校訪問團成行(全團111人，蕉葉會關係者有67人)。1月2日在師大禮堂舉辦創立五十週年紀念典禮。1972年5月的總會紀念創校五十週年，約300人出席，熱鬧非凡。吉村於1973年去世，會長由大越伸(東京大學名譽教授)代理，翌年總會決定大越擔任新會長，其後擔任會長者為霜三雄、前田一博、佐伯喜一、山口房雄、藏本人司(2015年去世)。

由上可見，蕉葉會是日籍師生維繫情誼的園地，更是日本人校友與臺灣人校友彼此強化人際關係的重要場合。戰後過了七十多年，蕉葉會於2015年解散。目前蕉兵會仍每月在新橋聚會，參加者多已年屆九十高齡，校友們懷念母校、愛臺灣的心，令人敬佩。如今走在師大校園，當看到蕉葉會贈送的時鐘(圖)時，希望其背後精彩豐富的故事，繼續感動世人。

國立臺灣師範大學 歷史系
王麒銘 助理教授

特筆すべきは、蕉葉会の会員が編纂し、1970年に1千部が作られた冊子『台北高等学校』の存在である。この1冊には非常に貴重な校史が記されている。また、前述した吉村が会長を務めた1971年には、12月29日から翌年1月3日にかけて5泊6日の日程で訪問団が結成され、蕉葉会関係者67人を含む111人が台湾を訪問している。この間、1月2日には台湾師範大学大礼堂で創立50周年の記念式典が行われている。72年5月には、台高創立50周年記念総会が開かれ、約300人が出席する快挙を遂げた。73年、吉村の逝去によって会長は大越伸が代理を務めた。その翌年の総会で大越が新たに会長に選出され、その後は霜三雄、前田一博、佐伯喜一、山口房雄、藏本人司が会長を務めた(藏本氏は2015年に逝去)。

上述のように、蕉葉会は日本における台高関係者の交流の場にとどまらず、日本人卒業生と台湾人卒業生が互いに関係を深める重要な場ともなっていた。戦後70年以上が経過して関係者が少なくなったことなどから、2015年、蕉葉会は解散となった。現在は蕉兵会が月に一度、東京新橋に集う。参加者の多くは齢90を越えたが、母校を懐かしみ、台湾に想いを寄せる姿には、畏敬の念を禁じ得ない。今、台湾師範大学の校内には、蕉葉会から贈られた鐘を見ることができる。この鐘の存在が、多くの人が潜り抜けてきた波乱万丈の人生を伝え、後世へも語り継がれることを願ってやまない。(田中美帆訳)

王麒銘



1992 年台高同學會與蕉葉會贈送師大的紀念鐘



蕉葉會與台高同學會集資完成的自由之鐘

次頁照片牆

	①	⑦
②	⑤	⑧
③		
④	⑥	

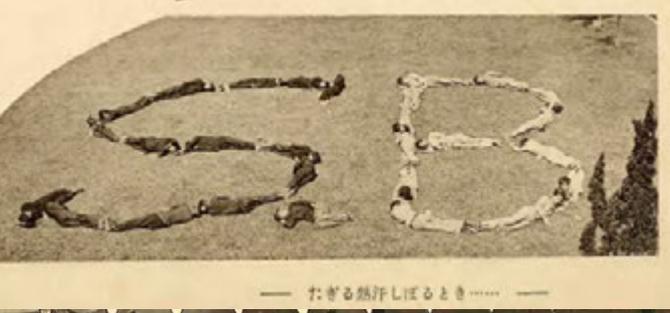
- ① 1938 年（昭和 13 年）11 理甲班學生，在第九回紀念祭的舞台話劇結束後，和演員在舞台上合影。
- ② 1938 年（昭和 13 年）11 文甲班學生，在新店碧潭的吊橋上，或坐或站立在欄杆上合影。
- ③ 1932 年（昭和 7 年）5 理乙班學生，倒臥在校園的草坪上排成 S.B 英文字樣留影。
- ④ 1932 年（昭和 7 年）5 理乙班學生，在學生宿舍內集體飲清酒作樂、形骸放浪不羈的歡樂情景。
- ⑤ 1939 年（昭和 14 年）12 文甲班學生，晚上赤裸上身或穿著禪納涼合歡的情景。
- ⑥ 1938 年（昭和 13 年）11 文甲班學生，晚上在路邊攤販品嚐小吃的情景。
- ⑦ 1933 年（昭和 8 年）6 文甲班學生，在教室黑板的板書前全體合照留影。
- ⑧ 1938 年（昭和 13 年）11 理甲班學生，在雨夜穿著制服腳踩木屐，舉著長條幡旗遊行後在公園合影。



蛇足

31

台北
輝真館



蛇を飾るとき……





相隔一甲子再相聚 臺北高校同學會

60年の時を経て再び集まる 台北高校同窓会

臺北高校同學會於2019年3月16日在文薈廳舉行，臺北高校同學會會長辜寬敏及師大校長吳正己及多位高齡校友都到場同歡。2019年是臺北高校併入師大校史的第一年，辜寬敏會長表示感到非常光榮與意義非凡，對校友而言，併入師大校史也讓臺北高校能夠永存。吳正己校長也表示，文薈廳及圖書館都收藏有很多臺北高校的的照片、物品，臺史所進行口述歷史採訪錄影，臺文系也透過「國家文化記憶庫計畫」推動臺北高校的歷史轉譯，讓更多人可以認識這段獨特的歷史。

台北高校同窓会が2019年3月16日に文薈廳で開催された。台北高校同窓会会長・辜寬敏氏、国立台湾師範大学学長・吳正己氏、その他多くの卒業生達が会場に集まり再会の喜びを分かち合った。2019年は台北高校が師範大学の歴史に組み込まれた一年目であり、辜寬敏氏はこれを非常に光栄で、意義のあるものだと感じており、台湾師大の歴史に組み込まれるということは、卒業生にとって台北高校が未来永劫生き続けるということであると述べた。吳正己学長もまた、文薈廳と図書館のどちらにも多くの台北高校の写真、物品、台湾史研究所が行った口述歴史の映像記録などがあり、台湾語文学科も「國家文化記憶庫計畫（國家文化記憶庫プロジェクト）」を通して、より多くの人々にこの独特な歴史を知ってもらえるように台北高校に関する歴史資料の翻訳を推し進めていると語った。

「蕉兵會」暢言往昔 臺北高校同窓東京聚首

「蕉兵会」昔話に花を咲かせ 台北高校同窓生、東京で集まる

2019年4月26日由師大吳正己校長偕同印永翔副校長、圖書館柯皓仁館長、臺史所蔡錦堂教授、臺文系系林中力主任帶團前往東京參加由臺北高校終戰時在校生所組成的「蕉兵會」例行聚會。會中由川平朝清先生擔任司儀，並在召集人竹內昭太郎先生及數位核心成員致詞後，邀請吳校長正己致詞。校長除了向校友報告本校校務會議通過追溯校史的決議之外，亦介紹圖書館臺北高校校史展示室中典藏的臺北高校文物，期盼校友能將珍貴的臺北高校文物捐贈予本校；並邀請校友們赴臺參加六月份本校校慶。參加此次校友聚會的蕉兵會成員此外還有園部逸夫、伊藤圭典、德丸薩郎、田島覺等諸位先生。眾人除了暢談過去的校園趣事之外，更還齊唱校歌與寮歌。氣氛非常熱烈而且溫馨感人。



2019年4月26日、台湾師大の吳正己学長と共に印永翔副学長、同学図書館の柯皓仁館長、台湾史研究所の蔡錦堂教授、また台湾語文学科の林中力学科長が東京に赴き、終戦時の在校生で結成された「蕉兵会」の例会に参加した。同会では川平朝清氏が司会を務め、主宰者の竹内昭太郎氏と数名の中心メンバーによるスピーチの後、吳学長からもあいさつがなされた。学長は会員らに対し、学務会議にて学校の歴史をさかのぼる決議がされたことを自ら報告し、同年6月に台湾師大で行われる創立記念式典に卒業生を招待した。今回の例会には園部逸夫氏、伊藤圭典氏、徳丸薩郎氏、田島覚氏らも列席した。参加したメンバー達は台高キャンパスでの思い出話などを心おきなく語り合い、さらに校歌や寮歌を合唱したりと、温かい雰囲気の中で台湾からの一団を迎えてくれた。

梁實秋故居重新開幕 舉辦創校 97 週年特展

旧富田義介教授邸再オープン 創立 97 周年特別記念展開催

為迎接 97 年校慶，師大在 2019 年 6 月 3 日舉辦舉辦「記憶與傳承—師大創校 97 年特展」暨梁實秋故居開幕式。梁實秋故居建於 1933 年，最早是臺北高等學校英語教授富田義介宿舍。1945 年後改為省立師範學院教職員宿舍，陸續由張儒林、梁實秋、甯杼等人入住使用。吳正己校長在開幕致詞中表示，透過重建歷史來傳承近百年的辦學及人文精神，臺北高中校友溫理仁先生，從人文、精神和空間交織而成的歷史，引起他多年的回憶和心中的感動，使他對與師大共有的歷史軌跡深感認同與榮耀。

創立 97 周年を迎えるにあたり、台湾師大では 2019 年 6 月 3 日に「記憶と継承—国立台湾師範大学創立 97 周年特別記念展」および旧梁実秋邸の開幕式が行われた。旧梁実秋邸は 1933 年に建てられ、台北高等学校英語教授・富田義介氏が居住していた時期もあった。1945 年省立師範学院教職員宿舍になり、張儒林、梁実秋、甯杼といった人物とその家族が居住した。吳正己学長は開幕式のスピーチで、歴史研究を通し百年に及ぼうとする学校のその校風や人文精神を受け継いでいきたいと語りつた。台北高中卒業生の温理仁氏もまた、人文教養が織り成した歴史は彼の遠い記憶を呼び起こし、台湾師大と共に台北高校が歴史を刻むことは光栄なことであると語つた。



臺師大合併臺北高校校史後 首次辦理 97 週年校慶大會

台灣師範大學・台北高校合併後初となる創立 97 周年記念式典



台師大 97 週年校慶大會於 2019 年 6 月 5 日舉行。2018 年 11 月校務會議通過追溯校史自 1922 年臺北高校開始起算，吳正己校長表示今年校慶不同世代的校友集結，代表世代傳承，從學風自由的高等學校，到以誠正勤樸自許的中學師資搖籃，進而擴展到多元發展的綜合型大學，在各方面的表現都越來越亮眼。校慶典禮上臺北高校同學會會長辜寬敏、全國校友總會名譽理事長王金平及學生會秘書長陳淳輪流上臺，分別代表老、中、青三代致詞，象徵薪火相傳，見證師大成長茁壯。

台灣師大は 2019 年 6 月 5 日に創立 97 周年記念式典を挙行。2018 年 11 月台湾師大務会議では、1922 年の台北高校創立年から大学の歴史をたどる決議がされた。吳正己学長は今年の創立記念式典はそれぞれ違う世代の卒業生が集まり、古い世代から新しい世代に学校の歴史が受け継がれていることを体現できたと語った。

自由な学風を持つ高等学校から、誠実で勤勉であることを自負する教員養成校へ、そして多元的な総合大学にまで発展し、卒業生の各方面での活躍はますます眩しいものになっているとも述べた。創立記念式典では台北高校同学会会長・辜寬敏氏、全国卒業生總會名譽理事長・王金平氏と生徒会秘書長・陳淳氏が順々に舞台上上がり、老・壮・青の三つの世代に分かれスピーチをした。それはそれぞれの世代に学校文化や精神が受け継がれているということ象徴し、また台湾師大の成長発展を証明するものともなった。

國立臺灣師範大學出版中心

典藏臺北高校

臺北高校徽章



NT. 85

此徽章為當代畫家鹽月桃甫設計，以三片芭蕉葉組合成正三角形，蕉葉象徵著勝利、正義、向上；三角形表平等、安定、進步，葉尖以椰子樹葉設計尖角，意味著各學門並重而不偏頗，蘊含臺北高校之學風與美德承襲。

高校鐵盒明信片



NT. 420

明信片共 8 張含有兩款圖案，一款是高校時期的老照片，一款則是 1928 年高校第一次校慶時所發行的明信片，另有 4 張仿舊風格的貼紙，及高校紀念徽章。復古的設計，搭配鐵盒包裝，極富紀念價值。

高校 90 週年紀念明信片



NT. 125

由高校學生藏本人司所繪製的臺高生百態明信片，呈現當時學生生活的樣貌，共分 A、B 兩款，每款各 8 張，趣味十足。

臺師大 x 自由之鐘紀念風鈴



NT. 3700

『臺師大 x 自由之鐘紀念風鈴』，磷銅製鐘體一面刻有師大校徽，一面則為高校校徽。搭配一面烙有師大校訓「誠正勤樸」，一面臺北高校學風「自由自治」之木牌，按照原鐘比例手工打造，將歷史與精神揉合並傳承。

國立臺灣師範大學出版中心

電話：(02)7749-5291

信箱：libpress@ntnu.edu.tw

網站：請掃 QR code



菁英、文藝與戰爭——
由舊制台北高等學校傳
閱雜誌《雲葉》與《杏》
看菁英學生的精神樣貌



本書藉由分析台北高等學校的學生於太平洋戰爭最激烈的日治末期（1943年）自主創刊的傳閱雜誌《雲葉》與《杏》，論證戰爭時期菁英學生的精神樣貌。《雲葉》是1940年入學的學生們，在就讀尋常科四年級時所發行的班級雜誌。《杏》則是以台北高校高等科二年級與三年級的三位理科生為中心所發行的雜誌。

本書は『戦時下台湾の高等学校生と文芸』と題し、1940年代太平洋戦争下の台北高等学校における台湾人及び日本人学生達の文芸活動、そしてその作品を通して当時のエリート学生達の精神史を見つめたものである。

作者：津田勤子

出版：2018/12

ISBN：9789865624491

日治時期臺北高等
學校與菁英養成



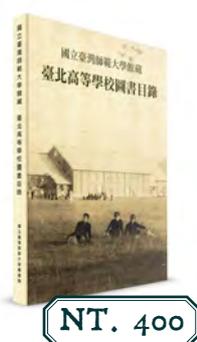
國立臺灣師範大學前身——臺北高等學校，是培育日治中期以降與戰後臺灣知識菁英的搖籃。本書以臺灣歷史研究的主體立場出發，除探討臺北高校設立過程與運作方式，尤其重視知識菁英的塑造、意識與發展歷程，論述中突顯出殖民地高校的特色，亦對臺灣高等教育史、日本舊制高校研究有補遺之功。

作者：徐聖凱

出版：2012/10

ISBN：9789577527417

國立臺灣師範大學
館藏——臺北高等
學校圖書目錄



本書將國立臺灣師範大學於高校時期的藏書做了一番整理，內容包含吳聖雄教授撰寫的〈臺灣師範大學圖書館藏日文舊籍的過去、現在與未來〉與王秀雄教授撰寫的〈臺灣師範大學圖書館藏美術日文舊籍介紹〉。特別獨立出「臺北高等學校圖書館圖書分類表」供研究者利用，並提供「題名索引」以利查找。

出版：2012/10

ISBN：9789577528025

白線帽的青春——
臺北高等學校歷史
紀錄片



(家用版)

臺北高校是一間什麼樣的學校？在這個學校中，有一群年輕人沉浸於菁英教育的殿堂中，自由、多元、狂熱的吸收著各種思想文化潮流。他們認為，臺北高校的就學生涯啟發了他們面對學問的態度，深刻影響了日後的人生觀。他們在不同領域發光發熱，影響日後的臺灣社會發展。

作者：國立臺灣師範大學圖書館

出版：2012/10

規格：光碟片 DVD



通訊聯絡欄

國立臺灣師範大學為充實校史資料，致力於蒐集日治時期臺北高等學校相關資料，經整理後加以公開，期能促進各界認識本校的歷史。圖書館校史特藏組懇請本刊讀者協助提供訊息及捐贈資料予本校典藏，詳見如下所列各項。

- ① 歷代校長的個人資料（松村傳、三澤糾、下村虎次郎 / 湖人、谷本清心、下川履信）
- ② 臺北高校教授、職員的個人資料
（例如：證書、照片、日記或手稿、筆記、相簿、回憶錄、追悼錄、相關物品）
- ③ 畢業生及終戰時在校生的個人資料（同上）
- ④ 二次大戰時期臺北高校師生的生活史、戰死的教職員生的相關資料
- ⑤ 同窗會（各班）、蕉葉會、蕉兵會的相關資料（例如：名簿、會報、文集等）
- ⑥ 臺高會（臺北高校同學會）的相關資料（同上）

有意寄贈資料者，煩請撥冗寫信至 ntnuhis@ntnu.edu.tw 與我們聯繫，謝謝！



国立台湾師範大学では、日本統治時代に台北高等学校で学ばれた卒業生、あるいは当校に関係する方々の関連資料を広く収集しております。

校史の充実と関係者の交流促進に向け、収集した資料は整理を経て、一般公開の予定です。皆様のお手元に当時の関連資料や情報がございましたら、国立台湾師範大学図書館の校史特蔵組までご一報いただければ幸いです。

現在、特に次のような資料を探しております。

-
- ① 松村伝、三澤糾、下村虎次郎 / 湖人、谷本清心、下川履信といった歴代校長の個人資料
 - ② 教職員に関する資料
 - ③ 卒業生もしくは終戦時の在校生に関する資料
 - ④ 戦時下の台北高校や学徒兵、戦没死された教職員・卒業生の関連資料
 - ①～④ については、各種証書、写真、日記や手記、授業ノート、卒業アルバム、書類、冊子、回想録、追悼録などを探しております。
 - ⑤ 各クラスの同窓会、蕉葉会、蕉兵会に関する資料
 - ⑥ 台高会（台北高校同学会）に関する資料
 - ⑤～⑥ については、名簿、会報、文集などを探しております。
-

上記のような資料のお持ちの方、あるいはご寄贈いただける方がいらっしゃいましたら、ntnuhis@ntnu.edu.tw までご連絡ください。（田中美帆訳）



邀您一齊為即將邁入百年的師大引燃照耀未來的火炬。

一所偉大的學校的誕生，來自師生與社會先進的共築與牽成。從臺北高校到師大，經歷了近一世紀的淬煉，在時間長河中拖曳出恆久不滅的軌跡，每一段燦燦生輝的校史，都鎔鑄了你我跨越世代的企盼與期許。希望此刻正在閱讀《臺高·師大通訊》的您能一同成為師大銘刻這份榮耀的力量，讓百年名校屹立於此，感動更多的人。

【校務發展】

延續臺北高校自由自治的精神，在師大多元而進取的校風下，陸續增設引領社會脈動的新系所，師大致力於國際化並與產業連結，同時串聯起堅實的校友網絡，讓學校成為充滿生命力的有機體。

【接軌世界】

面對國際化的浪潮，師大始終御風前行，正因為歷經風霜，而能無所畏懼，不僅遠颺國際學界、為臺灣開拓豐碩的學術成果，更禮聘海外優良師資及研究人才來臺，創造全球化的學習環境。

【優化校園】

建成近一世紀的校園，是無數知識與意念碰撞的殿堂，為了承載智慧的永恆，老舊的建物也亟需修繕與改造，師大積極翻新教學現場的軟硬體設備，讓教學環境能更為貼近當代趨勢。

【臺高計畫】

本計畫致力於收集並整理臺北高校的文物、並將之進行數位化。為觸及更多大眾，本計畫也擬活用臺高的文化資源材料，進一步連結校友、創意社群以及專業的文創業者，展開跨領域之推廣與轉譯。

基本資料

個人捐贈 機構團體捐贈

姓名		機構名稱		服務單位	
聯絡方式	電話：()		電子信箱		
身份	<input type="radio"/> 臺師大校友.....年.....系/所/班畢(結)業 <input type="radio"/> 在學生 <input type="radio"/> 臺師大教職員 <input type="radio"/> 家長 <input type="radio"/> 社會人士 <input type="radio"/> 企業機構 <input type="radio"/> 其他				
捐款徵信	是否願意將姓名、身分、捐款金額刊登於本校網站及刊物，以為公開徵信之用？ <input type="radio"/> 同意 <input type="radio"/> 匿名				
捐款用途	<input type="radio"/> 校務發展 <input type="radio"/> 接軌世界 <input type="radio"/> 優化校園 <input type="radio"/> 助學獎金 <input type="radio"/> 指定捐款(臺高計畫)..... * 請註明特定籌款計畫或單位與用途				
捐款方式	<input type="radio"/> 現金 <input type="radio"/> 支票 <input type="radio"/> 銀行匯款 <input type="radio"/> ATM轉帳 <input type="radio"/> 線上刷卡				
收據資料	* 捐款可100%自個人當年度綜合所得/企業營利所得總和中扣除。				
抬頭名稱			寄送地址		

銀行匯款 / ATM 轉帳須知	聯絡資訊	Give to NTNU
受款銀行：中國信託商業銀行，忠孝分行，代碼(8220185) 戶名：「國立臺灣師範大學401專戶」帳號：「185350001030」 * 敬請填妥本同意書後，連同匯款收據或轉帳明細表傳真、郵寄或掃描後email至本校公共事務中心。	傳真：02-32684393 信箱：give@ntnu.com.tw 捐款專線：02-77491036	





中華郵政臺北
雜字第1829號
執照登記為
雜誌交寄

第一屆
高台紀念祭



2020

2020, MAY
NO. 01

友よ遠くヨリ来ル



發行日期
2020年5月

發行人
吳正己

編輯小組
李怡佳、彭建森、白鎔維

編輯顧問
王麒銘

美術設計
GROUND ZERO

崎零地

發行單位
國立臺灣師範大學

共同協力
國立臺灣師範大學圖書館
文化部國家文化記憶庫計畫

聯絡單位
圖書館校史特藏組

台北市和平東路一段162號
02-7749-5281